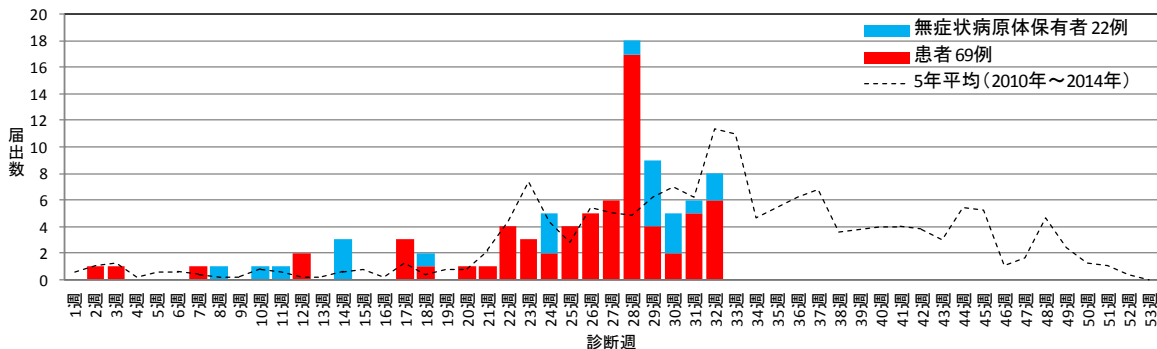


【今週の注目疾患】

腸管出血性大腸菌感染症

2015年32週に8例の届出があり、1週から32週までに91例の届出があった(図1)。腸管出血性大腸菌は少量の菌数(10～100個程度)でも感染が成立するため、食肉の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄、手洗いの励行、感染した人から他の人への感染予防が重要である¹⁾。2週連続で届出数が増加したため2015年に届出された91例の発生状況をまとめた。

図1 2015年千葉県の腸管出血性大腸菌感染症 診断週別・類型別届出数 91例



性別では、男性41例(45.1%)、女性50例(54.9%)だった。

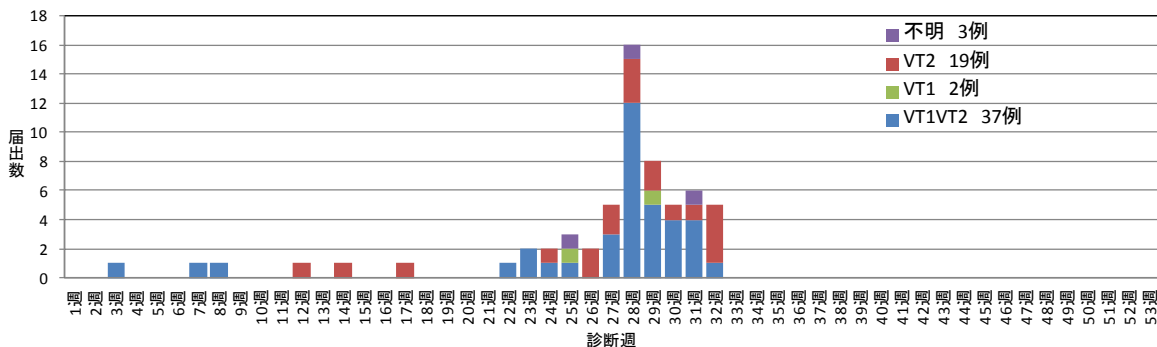
年齢群別では、10代23例(25.3%)、20代12例(13.2%)、30代10例(11.0%)が多かった。

類型別では、患者69例(75.8%)、無症状病原体保有22例(24.2%)だった。

患者69例の症状等は、腹痛55例(79.7%)、水様性下痢49例(71.0%)、血便33例(47.8%)、発熱19例(27.5%)、嘔吐17例(24.6%)、溶血性尿毒症症候群(HUS)1例(1.4%)、溶血性貧血1例(1.4%)、急性腎不全1例(1.4%)だった(複数報告あり)。

O血清群別では、O157が61例(67.0%)、不明が9例(9.9%)、O111が6例(6.6%)、O26が5例(5.5%)、O121が3例(3.3%)、O91が2例(2.2%)、O103が2例(2.2%)、O5が1例(1.1%)、O113が1例(1.1%)、O115が1例(1.1%)だった。最も報告が多いO157をVT型別に図2に示す。

図2 2015年千葉県の腸管出血性大腸菌O157感染症 診断週別・VT型別届出数 61例



参考

1) 感染症発生動向調査感染症週報 (IDWR) 2015年第29週

注目すべき感染症 腸管出血性大腸菌感染症

URL : <http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2015/idwr2015-29.pdf>